



●都市計画と交通

●第19回 1月31日(水)“都市とレジャーと交通”講師：丹沢章浩氏(三井不動産)※ 出席：10人。

まず前半では、思いきったカネで思いきったものを作ってゆくというディズニーのレジャー施設開発のゆき方を中心に、三井の計画も折りまげて紹介された。ディズニーは、単なるプレイランドでなく、ファミリーエンターテイメントを目ざし、都市開発の事業展開を行なう。また、とくにソフトウェアにカネをかけ趣向をこらす点や、いろいろな運営のノウハウなど興味深い話があった。(たとえば、アメリカ人と日本人の老人の健康度の違いとレジャー施設の違いなどの話も出た。)

つぎに、アメリカ型のショッピングセンターの特徴と日本での可能性などについて、交通との絡みも含めて話を聞いた。

●第20回 3月14日(水)“地下鉄路線網の計画”講師：猪瀬二郎氏(交通営団)※ 出席：9人。

はじめに地下鉄路線網選定の条件が述べられた。一般的な7つの条件のほかに、現在では車庫用地に苦勞するとのことだった。それから、路線網のかたちについて、ベターゼン型、カウエル型、ターナー型などいろいろなパターンが説明された。つぎに、大正9年(1920)以来の東京の網計画の変遷が順を追ってとりあげられ、意味が解説された。現在決定している網(昭和47年決定)と進捗状況、また建設費が高い理由などの話もあった。

●第21回 4月18日(水)“北総開発鉄道の建設——これからの鉄道のあり方”講師：黒岩源雄氏(北総開発鉄道)※ 出席：13人。

今まで陸上交通に恵まれなかった北総地帯(千葉県北部)に建設され、去る3月開業(第1期)した北総開発鉄道は、好評裡に営業に入っているが、‘地元の人に愛される鉄道’を目ざして建設に当たった興味深い話をうかがった。そのなかで、地元の人を説得しての用地買収の話から、騒音(工事中および運転時)に対する配慮、千葉ニュータウン計画との関連(開通時期)をはじめ、工事、車両、要員、運転、営業の各面にまつわる話を通じて、新しい技術やアイデアの紹介とともに、これからの鉄道のあり方についての考えを示された。

以上、いずれも会場は東洋経済新報社。※印は外部講師。

●実施理論

●4月例会 4月21日(土)、15:00~17:00、東京工業大学、出席者18名。

今月の部会は、当部会の第1回会合である。参会者の自己紹介を行なうとともに、さっそく主査松田武彦による Implementing OR/MS の紹介および第1章 Implementation and Management Innovation の講読を行なった。

この第1章によれば、本書は、Implementation Gap の発生理由の研究とこの Gap の解消の方策を論じた行動論的研究書となっている。また、本章では、以降の章で展開されるケース的、調査研究的、実験的、理論・哲学的諸研究のモデルおよび成果の要約がなされている。

●政策科学

●4月例会：4月21日(土) 14:00~17:00、場所：三菱総研会議室、出席：10名。

(1) 研究発表「ゲオポリティックス(2)」(武田薬品・湊晋平氏)：国際関係の歴史を理想主義と現実主義、両極体系と分散体系、普遍体系と階層体系の各面から考察した後、国家と民族の概念を明らかにし、最後に面積・人口・鉄鋼・エネルギー・GNP・軍事力の6指標による国力比較を紹介。1967-68年の世界計を1000として1位は米国の222、2位はソ連の177、日本は中国、印度につき31で5位。

(2) 紹介「国際関係シミュレーション(1)」(三菱総研・細貝康夫氏)：下記参照。

●5月例会 5月19日(土) 14:00~17:00、場所：三菱総研会議室、出席：11名。

(1) 紹介「国際関係シミュレーション(2)」(三菱総研・細貝康夫氏)：ある政治現象が発生した場合(入力)にどんな政策をとれば(制御変数)、望ましい結果が出るか(出力)など国際環境と日本政府の対外政策形成過程の影響関係をコンピュータ・シミュレーションで調べた実施例を説明。入力8、制御変数5、内生変数12、出力1を設け、与党の安定には対米協力が重要だと判った。

(2) 研究発表「韓国経済と中小企業(1)」(植松会計事務所・新保玲子氏)：資源小国日韓独3国の経済発展に中小企業が果たした役割を探ろうと、手始めに歴史的、社会的背景の異同を調べ、成長要因を比べ、データを整理して示した。